

LEARN WITH ソフトバンク ～魔法のプロジェクト 2024～ インクルーシブ教育 実践事例

事例の活用について

※本事例の知的財産は投稿者に留保されます、使用される際には出典として
「LEARN WITH ソフトバンク ～魔法のプロジェクト 2024 組織名」 を記載ください。

■基本情報

組織名： 学校法人津曲学園鹿児島修学館中学校・高等学校

所在地： 〒890-0023
※都道府県・市区町村 鹿児島県鹿児島市永吉二丁目9番1号

氏名： 新名主 敏史

■インクルーシブ対応を検討するきっかけとなった児童・生徒（※以下「対象の子ども」と略）について

対象の子どもの学齢 中学3年生

障害種別： 知的障がい、知的障がいを伴う ASD
高機能自閉、アスペルガー症候群 読み書き障がい
注意欠損多動性障がい (AD/HD) 肢体不自由
聴覚障がい 構音障がい 視覚障がい 病弱
重度重複障がい その他 ()

主訴 (主な困り) 読む 書く 聞く 見る 話す 記憶する 移動する
その他 ()

その他補足 保護者から、以下のように要望を知らせていただき、対応の検討を始めた。

「知能検査の結果などから、学校生活に適応するために負荷がかかっている。その結果、感覚過敏が酷くなる、頭痛等の体の不調が生じている。環境調整をすることにより、本人の負荷を緩和する狙いでレポートをパソコンで制作しても OK な環境にすることを検討できないか？」

特性上、手書きのレポートに定型発達の子と比較して多くの時間がかかる。求められていることに対して、自分の考えが外れていることが多いので、脳内で調整。その後手書きで書くまでにタイムラグが生じ、ストレスが溜まる。しかし、パソコンなら脳内のイメージを瞬時にテキスト変換できるので負荷が少ない。本人だけ特別扱いされるのは最も嫌うので、ICT を活用している本校だからこそ、生徒全体に対して紙でのレポート提出だけでなく、パソコンでも OK というふうに、一人一人が選択できる環境を少しずつ整えてもらえるとうれしい。」

■対象の子どもが利用している ICT について

①利用端末（ハード） タブレット PC その他（ ）

②OS Windows MacOS Chrome Android iOS その他

③使用した ICT の機能やアプリを教えてください。複数あれば、ボックスを追加して記載してください。ネイティブアプリ（最初から搭載されているアプリ）の URL は記載不要です。

名称： **グーグルクラスルーム・ドキュメント**
 紹介 URL：

名称：
 紹介 URL：

④上記の ICT を活用して、対象の子どもの困りをどのように軽減されたかを詳しく記載ください。

生徒全体に対して紙でのレポート提出だけでなく、パソコンでも OK という状況になり、「特別扱いされる」ことを気にすることなくストレスや負荷が緩和され、頭痛等の体の不調や欠席・遅刻が減った。

■インクルーシブ対応状況について

① インクルーシブ対応の検討の 児童生徒は、どの範囲まで利用が可能ですか？

教科	<input checked="" type="checkbox"/> 全ての教科で使用可能 <input type="checkbox"/> 特定の教科のみ使用可能
場所	<input type="checkbox"/> 通級等のみ <input type="checkbox"/> クラス限定 <input type="checkbox"/> 学年限定 <input checked="" type="checkbox"/> 学校全体
利用シーン	<input checked="" type="checkbox"/> 宿題 <input checked="" type="checkbox"/> 授業中 <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> 定期テスト <input type="checkbox"/> その他 ()

② 周囲の児童生徒が ICT を使用するにあたり、個別の許可が必要ですか？

はい いいえ

■インクルーシブ対応に向けての工夫について

①前問で、「いいえ」と回答された方にお伺いします。環境整備に向けた実施事項/工夫点について記載ください

実施事項/工夫点

特定の生徒だけではなく、レポート提出や発表、テストの解答において、一人一人が選択できる環境を整えられるように、まずは当該生徒のいる学年の教科担当者に可能な限り多様な方法で評価課題の提出等ができないか考えてもらえるようお願いした。

(インクルーシブな教育も求められる国際バカロレア教育の担当者の立場として。)

その学年での事例を校内の他の学年にも発信して、紙でのレポート提出だけでなく、パソコンでも OK というような対応は標準的になった。

■その他

参考になる写真があれば、こちらに添付してください。

※個人の写真が含まれる場合、事前に保護者の許可が得られているものに限りませす。詳細は投稿要綱をご確認ください。

■変化や効果について

①対象の子どもにどのような変化がありましたか

生徒全体に対して紙でのレポート提出だけでなく、パソコンでも OK という状況になり、「特別扱いされる」ことを気にすることなくストレスや負荷が緩和され、頭痛等の体の不調や欠席・遅刻が減った。

旺盛な知的好奇心に基づいて学び、能力を発揮しやすくなって、表情が明るくなった。苦手な手書きではなく、得意なタイピングや ICT 技術を使って、質の高い成果物を作成して提出した。

自分にとって学びやすい方法が明確になったため、その学び方に近い上級学校への進学を選んだ。

③ 対象の子ども以外の児童・生徒や、学校全体にどのような変化がありましたか

レポート提出や発表、テストの解答において、一人一人が自分に合った方法を選択できる環境を整えられるように、可能な限り多様な方法で評価課題の提出等が提示できないか考えるように意識が変わった。国際バカロレア教育の認定校として、それまでも求められていたが、実践経験に乏しく、進んでいなかった。

評価課題や試験以外の場面でも、複数の資料・教材を示し、自分に合ったものを選ぶように促すようになった。

やってみたら、恐れていたほどの負担は生じないということが実感され、複数の方法を提示することが多くなった。生徒も、自分にはどのような学び方が合っているのかを各自選択するようになった。